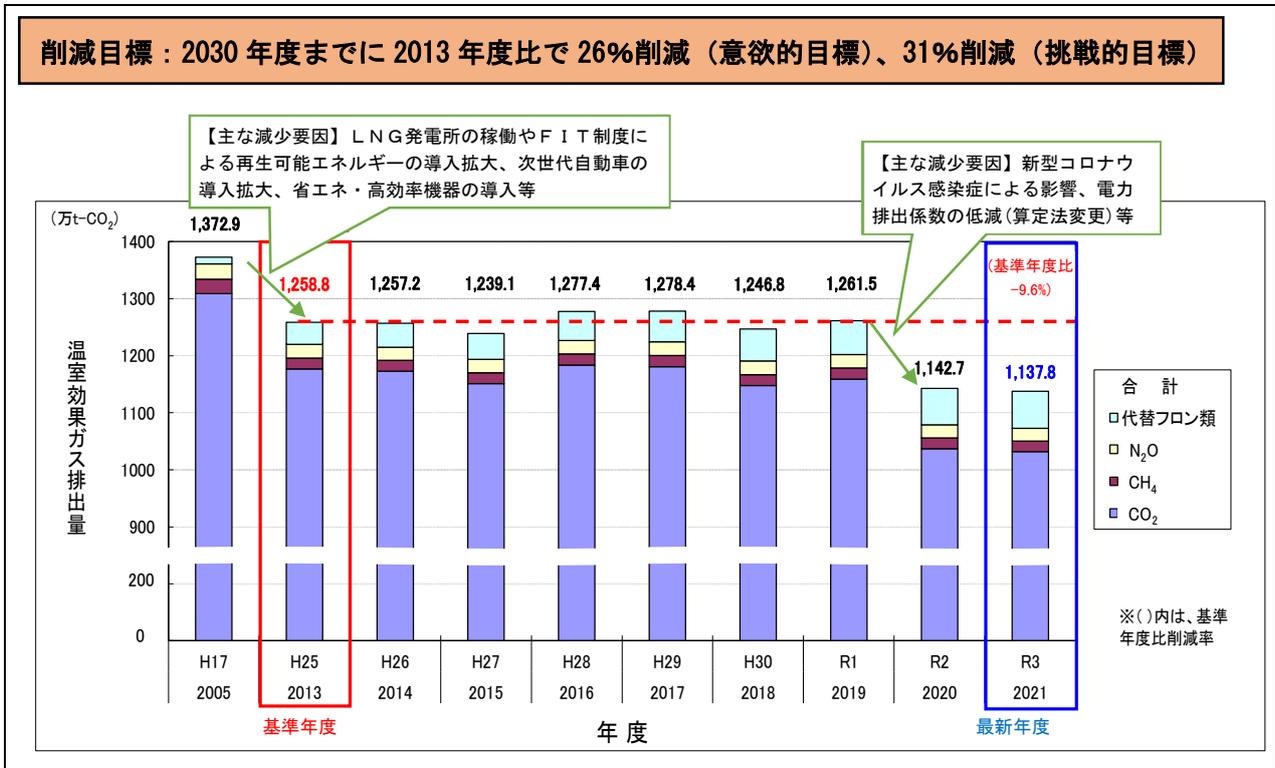


# 沖縄県の温室効果ガス排出量（2021年度（令和3年度）推計値）

- ✓ 2021年度の温室効果ガス排出量は、1,137.8万トンで、全国の排出量11億7000万トンの0.97%であった。
  - 2005年度（ピーク年度）比：235.1万トン減 17.1%減
  - 2013年度（基準年度）比：121万トン減 9.6%減
  - 2020年度（前年度）比：4.9万トン減 0.4%減
  
- ✓ ガスの種類別の排出量は、二酸化炭素が1,031.6万トン、メタンが18.7万トン、一酸化二窒素が22.3万トン、代替フロン類が65.2万トンであった。
  - 二酸化炭素：前年度比 0.5%減 2013年度比 12.3%減
  - メタン：前年度比 2.1%減 2013年度比 3.1%減
  - 一酸化二窒素：前年度比 2.6%減 2013年度比 5.9%減
  - 代替フロン類：前年度比 1.9%増 2013年度比 66.3%増(※)

※代替フロン類は、全国の排出量の按分値として推計している。
  
- ✓ 二酸化炭素吸収量は、森林吸収源量、農地土壌炭素吸収量、都市緑化吸収量の合計で17.6万トンと推計され、全国の吸収量の0.4%程度に相当する。（参考値：全国の吸収量 4,600.7万トン）



- ✓ 2020年度、2021年度の排出量が減少したのは、①新型コロナウイルス感染症による影響や、②電力排出係数の算定法が変更されたことが大きな要因であり、また、2021年度は③木質バイオマス発電所の稼働も排出量の減少に貢献していると分析している。

✓ 部門別二酸化炭素排出量は、経年的に運輸部門の構成比が高いのが特徴であり、2021年度も運輸部門 32.2%、民生業務部門 23.6%、民生家庭部門 22.3%、産業部門 11.8%の順で高かった。(エネルギー転換部門、工業プロセス部門、廃棄物部門の記載は省略。報告書参照)

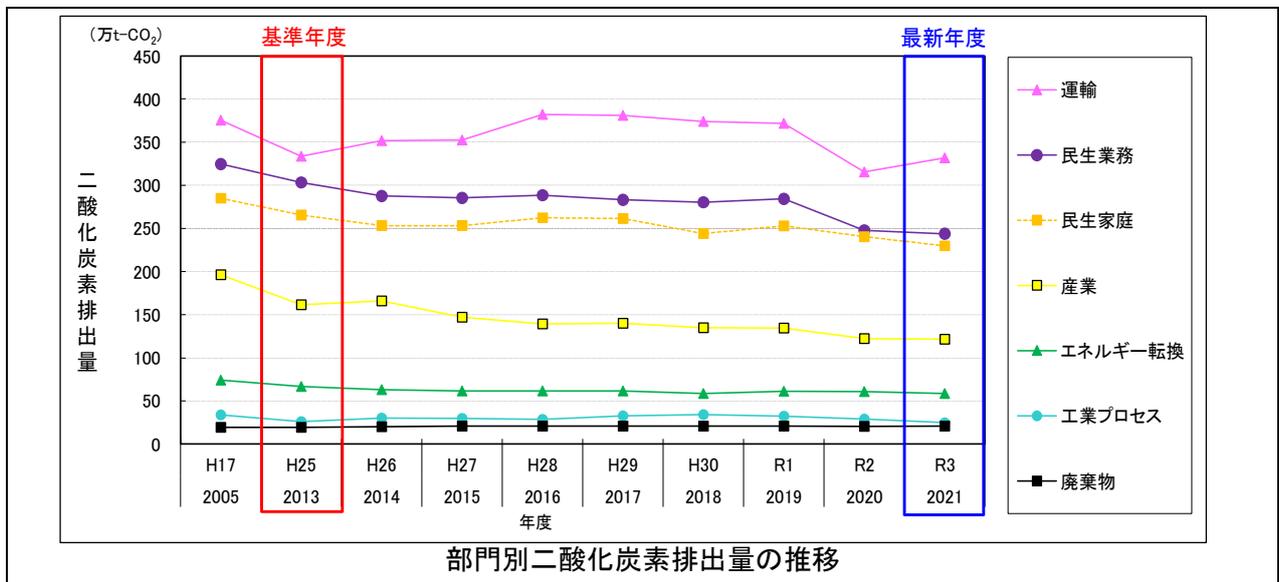
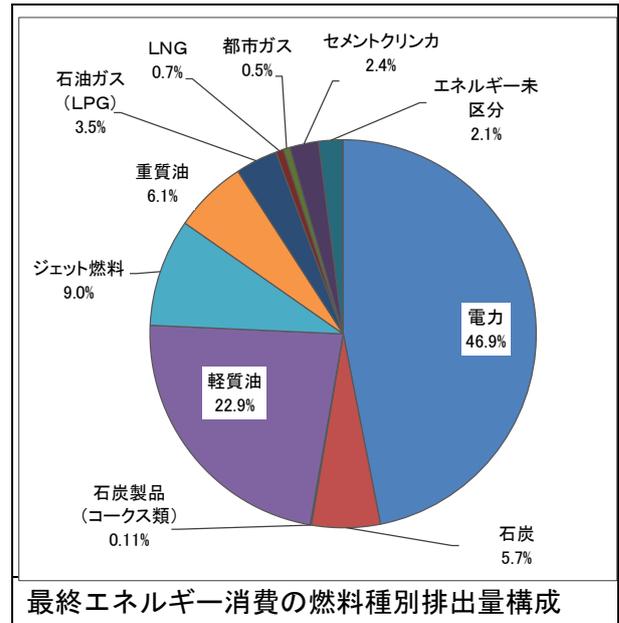
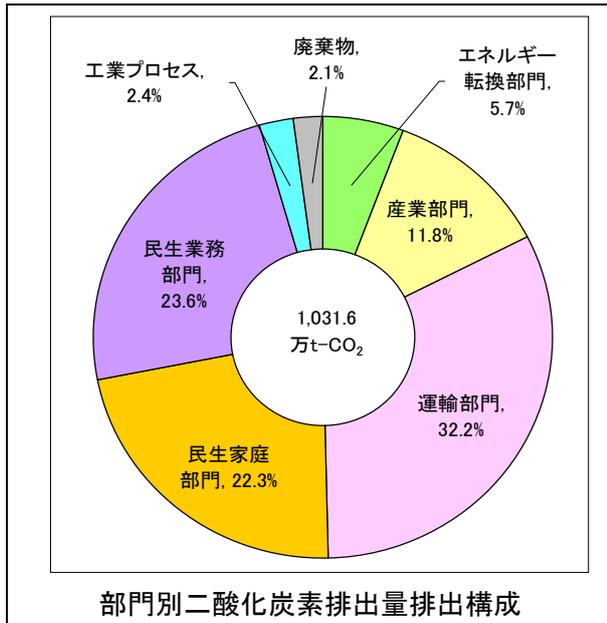
産業部門：前年度比 2.2%減

民生家庭部門：前年度比 10.7%減

運輸部門：前年度比 16.3%増

民生業務部門：前年度比 4.1%減

✓ 最終エネルギー消費の燃料種別二酸化炭素排出量は、電力(46.9%)が最も大きく、次に軽質油(ガソリン、軽油)(22.9%)、ジェット燃料(9.0%)、重質油(6.0%)の順となっている。



✓ まとめ(中期目標の達成に向けて)

本県の2021年度における温室効果ガス排出量は、2005年度のピークと比較して、17.1%(235.1万トン)、基準年度である2013年度比で9.6%(121万トン)、2021年度比で0.4%(4.9万トン)減少している。2020年度の新型コロナウイルス感染症による影響が継続していると考えられ、アフターコロナは経済活動が回復し、各部門のエネルギー消費量の増加が予想されることから、緩和策の取組を強化していく必要がある。